

1991



1992

# KAINAN EAST ROTARY CLUB

ROTARY INTERNATIONAL  
DISTRICT 2640

CLUB WEEKLY BULLETIN

自分を  
超えた  
眼を



Look Beyond Yourself

1991~92年度

国際ロータリーのテーマ

Raja

R. I. 会長

ラジェンドラ・K. サブー

第2640地区ガバナー

瀬戸新一

## 事務所

海南市日方1294 海南商工会議所内

TEL (0734) 83-0800

FAX (0734) 82-7370

## 例会日

毎週月曜日 12時30分

♣才1例会のみ 18時30分

於 海南商工会議所 4 F

会長 中村 雅行

幹事 西川 富雄 SAA 新垣 勝

会報委員会

◎山名 正一 ○小嵐 俊和

棕代 光夫 小椋 孝一

高岡 睦敏 田中 昌宏

塚本 義信

No.777 29 JUL 1991

第777回 例会 平成3年7月29日(月)午後12時30分  
於 海南商工会議所

1. 開 会 点 鐘 中村雅行 会長
2. ロータリーソング「それでこそロータリー」
3. ビジター紹介 中村 哲三様(海南RC)
4. 出席率の報告 会員総数 71名 除外会員 1名  
出席者数 58名 出席率 82.80% 修正出席率 81.16%
5. 会長スピーチ 中村雅行 会長

ビジターの中村様ようこそお越し下さいました。梅雨も明け本格的な暑さがやって参りました。もう古い言葉ですが省エネルギーを実行する為にも出来るだけ軽装で出席頂いて結構かと思えます。一昨日は山野さんに会員増強委員長会議に出席して頂き御苦労様でした。

さて夏本番となりましたが、全国高校野球選手権大会の県代表に智弁学園和歌山校が決定致しました。関係の皆様方にはこれからが大変だと思いますが、是非共、和歌山に深紅の大優勝旗を持ち帰って頂きたいと期待しております。

職業タクシーの元祖についてお話し致します。ルーツはパリの辻駕籠から発達したものらしい。1617年パリの都心で営業を始めたと言われています。1623年には辻馬車が免許制になりました。ロンドンでは1632年に辻駕籠、辻馬車の両方が免許制になりました。両都市共、愛用者は着飾った貴婦人達を中心だったようです。当時のヨーロッパの都市の道路は排水、汚物等でいつも不潔で、ぬかるんでいたもので、着飾った婦人達が歩ける様な街ではなかったようでした。

## 6. 幹事報告

### ○メーカーシップ

7/23 中村 隆俊君(川口西RC)

7/24 橋本 憲紹君(海南RC)

7/26 楠部 賢計君(和歌山中RC)

### ○例会変更のお知らせ

海南RC 8月21日(水)→8月21日(水)

PM 6:30~ 美登利にて

和歌山城南RC 8月22日(木)→8月22日(木)

PM 6:30~ 和歌山東急イン3階



○例会休会の御案内

和歌山 R C 8/13 (火) 和歌山西 R C 8/14 (水)  
海南 R C 8/14 (水) 泉佐野 R C 8/15 (木)  
打田 R C 8/16 (金) 和歌山城南 R C 8/15 (木)

○休暇届 大川 幹二君 1ヶ月の休暇届

7. 卓 話 宮田貞三社会奉仕委員長

R I サブ会長のメッセージ「自分を越えた眼を」皆様方には充分御理解頂いている事と思います。「自分の小さな利益だけを求めるのでは無く、限りなく広がる知恵の大空から、その下に広がる社会を眺めて、その社会のニーズを探り取り上げ、社会奉仕を実践して下さい」と訴えています。

奉仕の哲学として我々のよく知っている言葉に「超我の奉仕」サービスアバブセルフと云う言葉があります。この意味あいは、奉仕すると後から物質的な利益が得られるというのでは無くして、奉仕する事によって精神的な喜びが利益として得られるとの意味が秘められています。又ロータリー手続要覧にも「最もよく奉仕する者、最もよく報いられる」この言葉の報いられるも一にも二にも精神的な喜びで報いられると考えられています。サブ会長のテーマと最終的に相通ずることになるとと思います。

本年度は社会奉仕の委員会は21世紀に向けて新しい時代に対応できる様に人間尊重、地域発展、協同奉仕、環境保全の4つの小委員会に分けられました。瀬戸ガバナーは本年度の社会奉仕は昨年度に引続いて環境問題を重視するとの事です。ロータリアン一人一本植樹運動、河川の美化運動に特に力を入れて下さい。これからも蒸し暑くて寝苦しい日々が続きます。そんな時「自分の越えた眼を」サブ会長のインド哲学に思いをはせて下さい。

卓 話 山本敬作国際奉仕副委員長

国際奉仕とは、ロータリアンが国際理解、親善、平和を推進するために行っているさまざまなことが国際奉仕である。他国の人々、その文化、習慣、業績、抱負、問題を理解すること。自分の地域社会で、又旅行中、および国際大会に出席中の個人交流、読書と通信 etc 等により国際奉仕を行うことが出来る。

青少年交換事業を通じて留学生本人は勿論のこと受入れる側も世界理解につながる。そういう意味から積極的にこの問題に取り組んで欲しいとのインストラクターからの要望あり。

◇原則として1対1の交換

◇予算は1人当たり90万程度◇受入のホスト家々は1年を通じて3～4家族が望ましい

◇ロータリー家族だけでなく一般家庭にもホストファミリーをお願いしたい。この事がロータリー理解につながる。

ニココ・米山・ポリオプラス・BOX

喜田聡一郎君 中村 雅行君 山下 倫弘君 新垣 勝君 宮田 貞三君  
山本 敬作君 橋本 憲紹君